

教職員養成・育成だより 第60号

令和4年3月24日発行

横浜市教育委員会事務局 教職員育成課

令和3年度 よこはま教師塾「アイ・カレッジ」閉講

9月5日に開講した令和3年度のよこはま教師塾「アイ・カレッジ」は、全ての講座を終了し、3月19日をもって閉講しました。新型コロナウイルスの感染症の状況を踏まえ、全10日の開講日のうち、オンラインによる開催が5日、集合・対面での開催が5日となりましたが、塾生はこの間学びを止めることなく、「横浜の教師になる」という目標に向かって、常に真摯に学び続けました。3月の講座は、少人数グループを編成し、感染症対策を徹底した上で、授業づくり演習～教科等の模擬授業～、「教師を目指す『わたし』を磨こう～振り返り～」等を実施しました。どちらの内容も集合して実施することで、これまで学んだことを生かし、全て出し切ろうとする塾生の姿が見られました。その様子をお伝えします。

授業づくり演習～教科等の模擬授業～

12月に行った1回目の模擬授業を踏まえ、今求められている授業の在り方について、塾生なりに探究し、2回目の模擬授業に臨みました。小学校グループは国語科の学習指導案を更に練り上げ、中学校グループは新たな単元等に挑戦しました。発問を吟味し、児童生徒の反応やつぶやきを具体的に想定しながら、児童生徒から問いが生まれるような学習展開を考えるとともに、児童生徒の目線や立場に立った板書や教材・教具等の工夫が見られるようになりました。

小学校 国語の模擬授業に臨んだ塾生の声

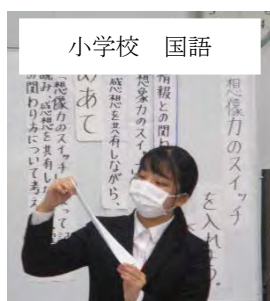
児童の興味・関心を引き出し、全ての児童が意欲的に取り組むことができる授業づくりができる教師になることが私の目標です。そのために、今回の模擬授業においては、どのような発問が児童の関心を高め、一人ひとりの興味を引き出すことができるかということについて、より深く学びたいと考えました。模擬授業後の討議では、問題を解決する過程や、ペアやグループワークの取り入れ方について他の塾生からたくさんアドバイスをもらいました。児童の興味・関心を高め、意欲を引き出すには、発問の工夫に加え、様々な手立てや準備が必要になるということが分かりました。「アイ・カレッジ」の活動を通して、自分自身が「主体的・対話的で深い学び」の学び手として、目指す授業づくりについて真剣に考え、成長することができたと実感しています。



中学校 英語



中学校 保健体育

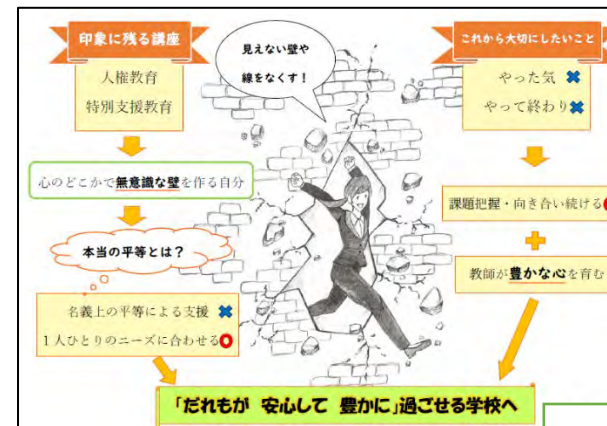


小学校 国語

教師を目指す『わたし』を磨こう ～振り返り～

塾生自身がこれまでの学びを振り返り、成長した自分、ここまで学び続けた自分についてポスターを作成し、一人1分半ずつプレゼンテーションを行いました。発表の一部を紹介します。

- 人前で発表したり、自分の意見を伝えたりすることが苦手だった。消極的な自分をこの半年でずいぶん変えることができた。
- 「横浜の教師になる」という同じ夢や目標をもっている仲間と出会えたことが、自分にとって大きな宝物である。卒塾後も、更に切磋琢磨しながら学び続けていきたい。
- 周りの塾生と比べ、「自分はなんでこんなことも分からないんだろう、できないんだろう」と落ち込むことも多かった。その度に、指導教官に励まされ、「焦らないで大丈夫だよ」と寄り添ってくださった。自分もそんな教師になりたいと強く思った。
- 講座内容や他の塾生の言葉を一字一句聞き逃したくないと思い、ノートを作ったり、日記をつけ始めたりした。KTPでは視点に沿ってメモをとり、学びを積み重ねることができた。
- 「アイ・カレッジ」が大切にしている「自学・協働・省察」の学び方のサイクルの重要性を実感した。このような学び方を身に付けることができたことを、これから様々な場面で生かしていきたい。



卒塾にあたって～副塾長講話～

副塾長である小原健人教職員育成課長からは3月12日に実施した模擬授業の指導・講評とともに、これまでの塾での学びや成長の価値付け、今後の塾生に期待すること等、卒塾にあたって講話をいただきました。「『アイ・カレッジ』で見つけた自分の強みや個性を存分に生かし、課題については真摯に向き合い、解決に向けて具体的に行動しながら、自分の夢や目標に向けて一歩ずつ進んでほしい。」というお話を、塾生はこれまでの半年間の日々とともに胸に刻もうと聞き入っている姿が見られました。



KTP (教師体験プログラム) への御理解・御協力 ありがとうございました

「教師体験プログラム (KTP)」につきまして、塾生に対し、各学校の実態や行事等に応じた多様なフィールドを提供していただきました。コロナ禍により、学校体験の活動が難しい場面もある中で、御理解・御協力いただき、ありがとうございました。塾生は児童生徒とのよりよい関わり方を学び、学校の「今」を感じることができました。また、教職員が日々の業務に当たるその姿から、教職という仕事のやりがいや魅力を改めて見いだすことができました。